

BOOK Review

臨床研究の教科書 第2版 研究デザインとデータ処理のポイント

評者

福岡 敏雄 倉敷中央病院副院長

この『臨床研究の教科書』は、臨床研究にかかわるどんな人にも必ず役立つところがある、どんな人にも読む価値がある、そんな不思議な本である。

臨床研究の流れが、しっかり丁寧に順を追って網羅的に書かれている。「統計解析」に飛びつきがちな初心者は第1部で研究の計画の大切さを、さまざまなデータで統計解析を行ってきた中級者は第3部で統計解析の実践的な意義付けを、研究を計画し実行したことがある実践者は第2部でもっと上手に研究チームを動かすスキルを、これから臨床研究論文を書こうとしている執筆者には第4部でその注意点と秘訣を、それぞれ学ぶことができる。

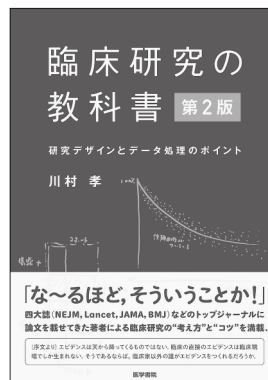
第5部では、リサーチクエスションから、研究の運営、その結果と反省点、そして発表まで、実際の研究を題材に細かく赤裸々書かれている。現場で気付いた疑問から研究につなげ出版に至る流れが記されている。ランダム化比較試験だけではなく、臨床予測モデルや記述研究などもあるし、研究が予定通りにいかなかったときの「転んでもただでは起きない」事例もある。

この本を貫いているのは、丁寧さと読みやすさである。基本概念を誤解なく伝える言い回しや事例も豊富に紹介されている。例えば、観察研究で行う擬似ランダム化試

験として傾向スコアを用いた解析法が、不確実さの対応としての感度分析が紹介されている。それぞれIgA腎症やウシ海綿状脳症などの事例を用いて説明されている。経験ある人は丁寧さを冗長さとするかもしれない。だが教える立場になったらその価値に気付くだろう。本書では統計解析や疫学用語にはほぼ全て日本語と英語が併記されている。初心者向けの配慮でもあるだろうが、英語に慣れてしまった上級者が、正しい用語で説明する時に大いに助けられるはずだ。

本当の初心者から上級者・専門家まで幅広く、やさしく丁寧に根気強く、そして細かな用語に至るまで正しく指導する、そんな著者の姿勢を感じた。脚注の的を射たコンパクトな説明も理解を助ける。また第2版ではAdvanced Knowledgeと題されたコラムが書き加えられている。

医療や保健の現場ではさまざまな疑問を抱く。そこで少しデータをまとめてみたくなる。それが臨床研究の第一歩である。患者のために住民のために社会のために、自らがもっと役立つように、研究したくなる。そんな視点から研究を始める人、そんな人を支える人にぜひ読んでほしい本である。



川村 孝 著

B5判/286頁/2020年/定価4,620円(本体4,200円+税10%) / ISBN978-4-260-04237-6 / 医学書院刊